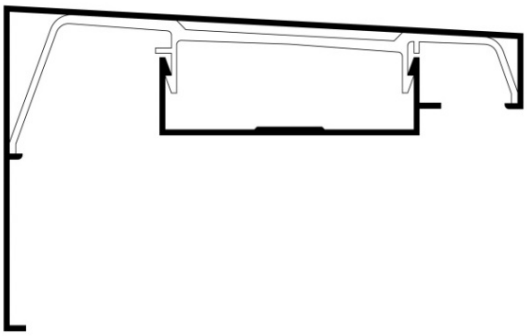
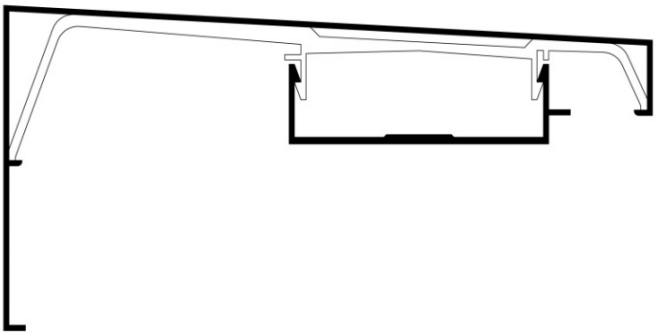
アルミエッジ笠木
施工手順書

アークエッジシリーズ

PE-120,150（押出形材エッジ笠木・レールタイプ）

Ver3.2023.07





白水興産株式会社

アルミエッジ笠木に関する注意点　(PEシリーズ)

以下の当社標準仕様をご確認ください。

1.ブラケット標準固定間隔に対する耐風圧
　下地材がRCの場合、 3900N/㎡（3900Pa）
　基準風速Vo:34ｍ/ｓの地域において高さ30m以下(10階建程度)、地表面粗度区分:Ⅲ
　縁あき寸法　PE-120は35mm以上、PE-150は33mm以上

2.固定方法
　樹脂プラグ Φ8mmとステンレスねじ Φ6mmの組み合わせ
　不陸調整は10mm程度
　下地材がRCの場合のみとします。
　樹脂プラグ：フィッシャー社　SX　8×40　使用

下地材	アンカー用下穴		アンカー（付属品）
	径	深さ	
RC	8.0	60	B-M8W

3.固定間隔
　ブラケット最大間隔　　700mm以内
　レールの最大固定間隔　900mm以内

必要ブラケット数(個/本：定尺2m)

品番	ブラケット	アンカー（下地RC）
PE-120	4	3
PE-150	4	3

※取り付け状況により下記確認が必要になります。
　・ブラケットの固定間隔、個数
　・レールの固定間隔、アンカーの個数

4.当社へお問い合わせください。
　1)上記の標準を外れる場合
　　①耐風圧　②不陸調整　③アンカーの距離

施工時の注意点－アンカー穴あけ編

・作業前に必ず施工図を確認してください。

・固定強度が反映されるため、当社推奨アンカーをご使用ください。

・アンカーの縁あきはPE-120は35mm以上、PE-150は33mm以上を確保してください。

・樹脂プラグ用の下穴はプラグメーカーの指定寸法としてください。

・穴あけ後にコンクリートの切粉は十分に除去してください。

・アンカープラグはモルタル層や防水層表面ではなく躯体に効かせてください。(図1-2参照)
※図1-2のようにモルタルで嵩上げされている場合は長いプラグを使用するか、フランジ無しプラグ(図1-3参照)を躯体まで差し込んでください。ねじも長いものを用意してください。

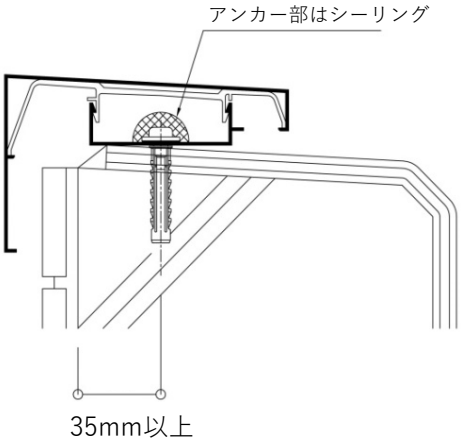


図1-1

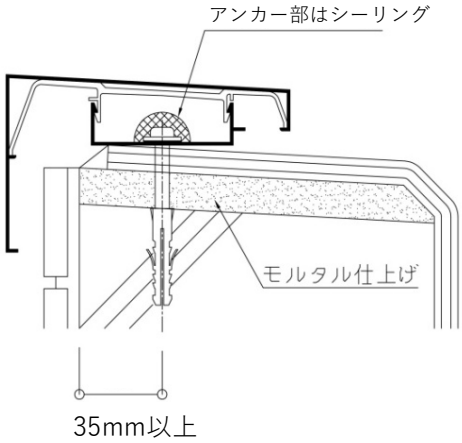
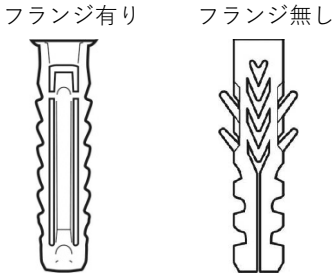


図1- 2



イラストは一例です

図1-3

施工時の注意点－ホルダー、ブラケット取り付け編

・取り付けはコーナー部より始めてください。

・パラペット天端は手前側に勾配がついているので、スペーサーを使って水平にしてください。ホルダー部分が水平になっていないとブラケット部やジョイント部でカバーが波打ちます。

・レベル調整は10mm程度にしてください。それ以上の時はお問い合わせください。

・水糸はホルダーの水下側に張って水平と高さを確認してください。(図2-1参照)

・躯体表面がモルタル仕上げで厚みが10mm以上の際もお問い合わせください。

・防水層に穴を開ける場合、防水材に合ったシーリング材でアンカー部をシーリングしてください。

・ホルダーのレベル調整にスペーサーを複数使用した場合、風による振動で抜け落ちる可能性があります。抜け落ちを防止するためシーリング材でスペーサーを一体に固めてください。

※スペーサーを半割にして使用した場合はより入念に固めてください。

・アンカー部を必ずシーリングをしてください。

防水の種類とシーリング材の適合例	
アスファルト防水	ゴムアスファルト系シーリング材
塩ビシート防水	変成シリコーン系シーリング材
ゴムシート防水	変成シリコーン系シーリング材
ウレタン防水	ウレタン系シーリング材 変成シリコーン系シーリング材
FRP防水	変成シリコーン系シーリング材

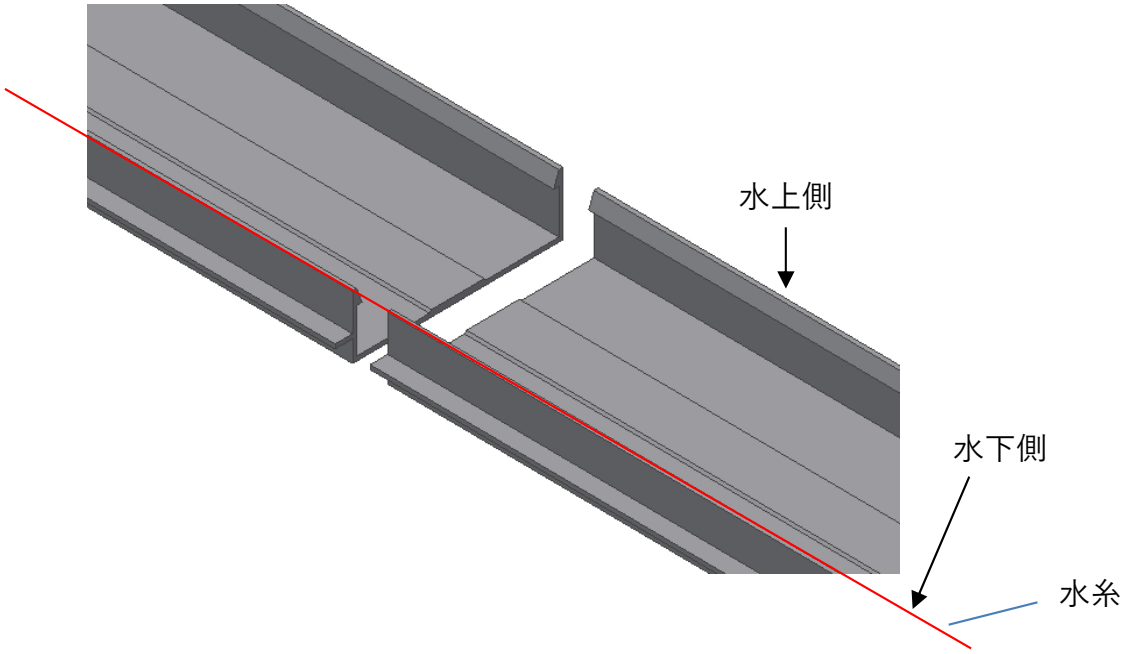


図2-1

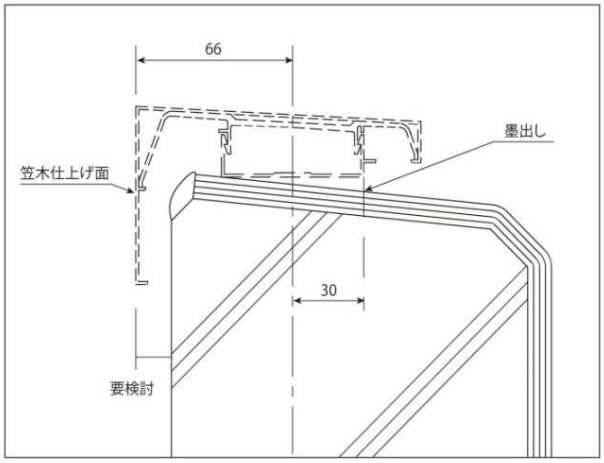
この度は当社アークエッジPE-120をお買い上げいただき誠に有難うございます。
施工手順として当社では下記の方法をお勧めいたします。
施工前に施工手順書をよくお読みいただき、安全・確実な施工をお願いいたします。

— 鋭意・先進・実績に宿る —
ハクスイ

PE-120施工手順

1 墨出し

笠木の仕上げ面と躯体との距離を検討し、ホルダーの位置を決める。
仕上げ面より 66mm の位置がホルダーの芯です。



2 ホルダー取り付け　アンカー用穴あけ

アンカーに合ったドリル径で穴をあける。削り粉は集塵機で吸引する。
※ 注）締め付けタイプのアンカーは 3 箇所 / 本

(1)

2 ホルダー取り付け　レベル調整 [手前・奥]

パラペット天端は手前側に勾配がついているので、
スペーサーを入れ水平にする。

(2)

2 ホルダー取り付け　レベル確認

ホルダー部分が水平になっていないとブラケット部やジョイント部で
カバーが波打ち、見た目が悪くなりますのでご注意ください。

(3)

2 ホルダー取り付け　レベル調整 [長さ]

糸を張り長さ方向のレベルを調整する。

(4)

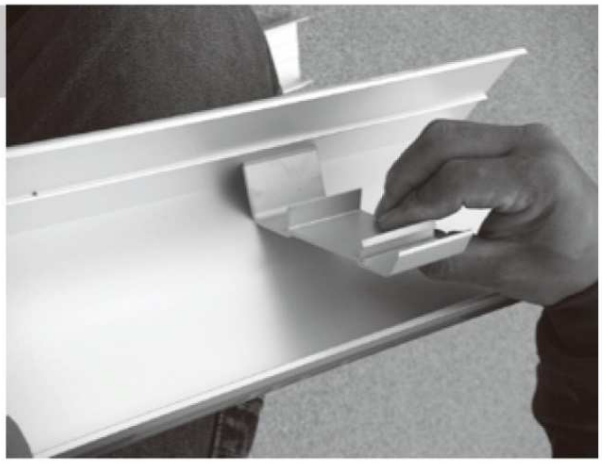
3 シーリング処理

ビスの部分より浸水しないようにシーリングを行う。
内側にシーリングをする場合もこの工程時に行う。

4 ブラケットの取り付け

外部側を差し込む。
床に置いて行うと傷が付き易いので写真の様に行うことをお勧めします。

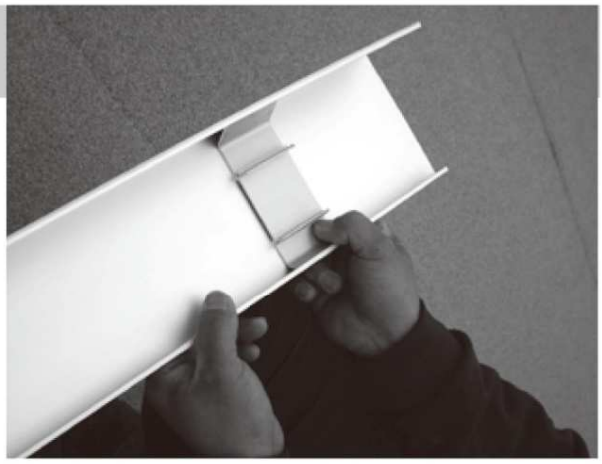
(1)



4 ブラケットの取り付け

内側を押し、はめる。

(2)



5 カバーの取り付け

カバー内のブラケットとホルダーを合わせる。
かんごう位置を確認する。

(1)

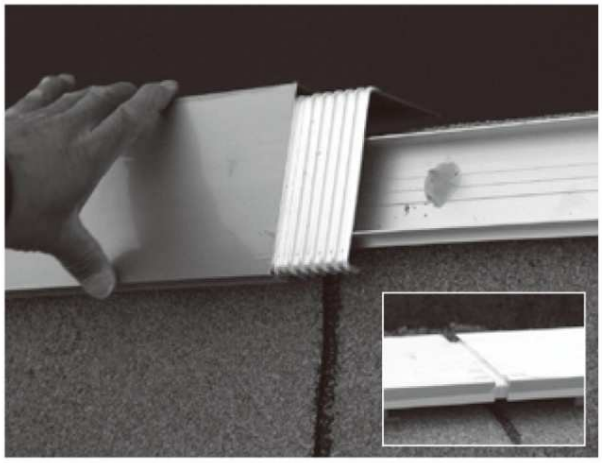
5 カバーの取り付け

ブラケットとホルダーをかんごうさせる。押すか軽く叩いてはめる。
※ 注）強く叩くとカバーが変形します。

(2)

6 カバーのジョイント

カバーにジョイントをはめる。
※ 写真は内ジョイントタイプ：標準



7 仕上がり

最後に養生材を剥がす。

製品の注意点(エッジ笠木)まとめ

PE-120/150

PEシリーズはホルダー・ブラケット・本体で構成されるエッジ笠木です。
端末押さえを兼ねるホルダーが有るため不陸の少ないシート防水系やウレタン防水向きの製品です。

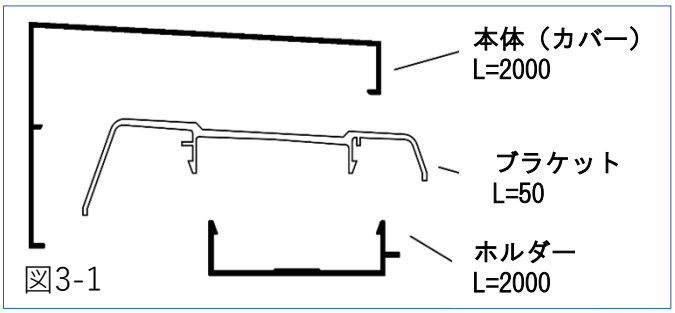


図3-1

PE-120/150
本体　　L=2000
ホルダー　　L=2000
ブラケット　　4ケ
※コーナーはブラケット3ケ

・ホルダー設置時のスペーサーを使用しての不陸調整は10mm迄になります。
・スペーサーを複数使用した場合、抜け落ちを防止するためシーリング材で
　スペーサーを一体に固めてください。
　<u>※スペーサーを半割にして使用した場合はより入念に固めてください。</u>

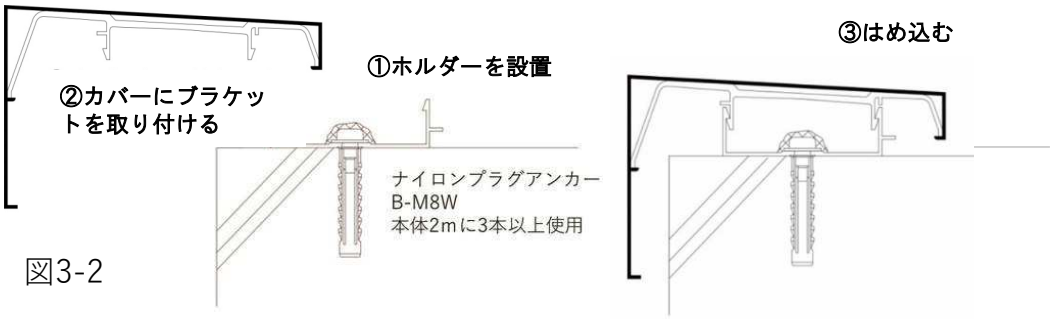


図3-2

・アンカー部はシーリングをしてください。

・ジョイント材取り付け時は、ずれ防止の為に一方の本体と重なる部位にシーリング材を塗布してください。(ジョイント部の笠木本体は10mm程度の隙間を設けてください)

・本体の取り付けは手でおこなってください。足で踏む、物で叩く等はしないでください。
　※無理な取り付けは傷つきや事故の原因となります。

・切断が必要な場合は現場の状況に応じて養生をおこなった上で作業してください。
　※切粉の飛散等で防水層や仕上げ材に傷がつく事があります。

・短尺(700mm以下)の本体取付時でも2個以上のブラケットで設置してください。

・切断面はヤスリを使用し、バリ取りをおこない、損傷の低減に努めてください。

・本体直線部は外れ止めとして、笠木本体端部の片側２箇所(ブラケット1ヶ、ジョイント1ヶ)
　に付属ねじ(NB-08)を止めてください。　(図3参照)

・ホルダーとブラケットのかんごうは内側を確認しながらおこなってください。

・内ジョイントを正しい位置に取り付けてください。

・外ジョイントカバーを取り付ける際は両面テープと取付ねじを併用してください。

・取り付け完了後も笠木の上には乗ったり、物を置かないでください。

・養生フィルムの剥離は現場に確認後におこなってください。
　※ただし長期間放置するとフィルムの固着や粘着残りの恐れがあります。

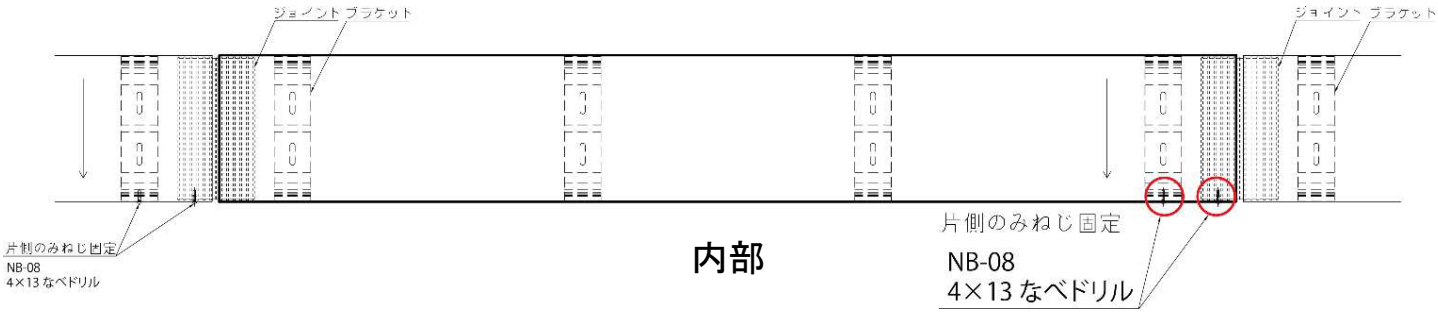
図3-3

・ブラケット・ジョイント固定ねじ　NB-08 SUSなべドリル4x13

(注)アルミ笠木は熱による伸縮が大きいため、ブラケットとジョイントの
ねじ固定は笠木本体端部のどちらか片側のみとする（両端固定はしない）

≪直線部≫

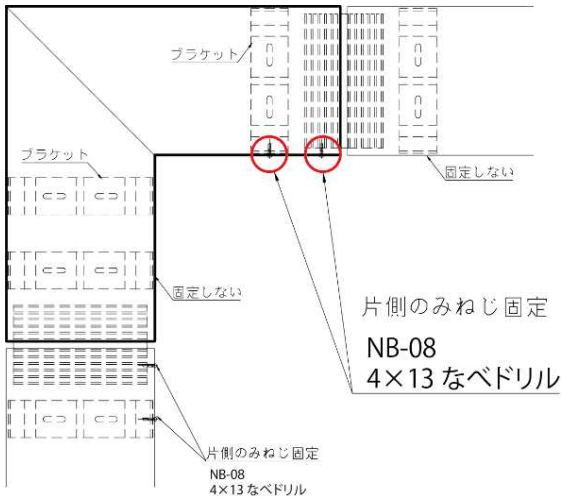
外部



内部

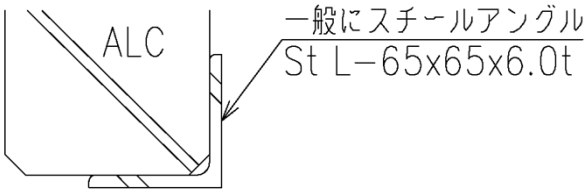
≪コーナー部≫

外部



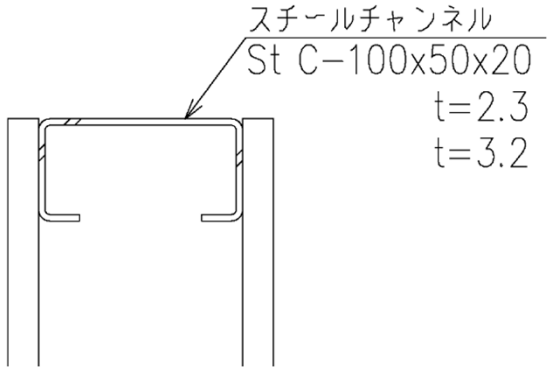
内部

下地がスチールの時の取付ねじの選定について



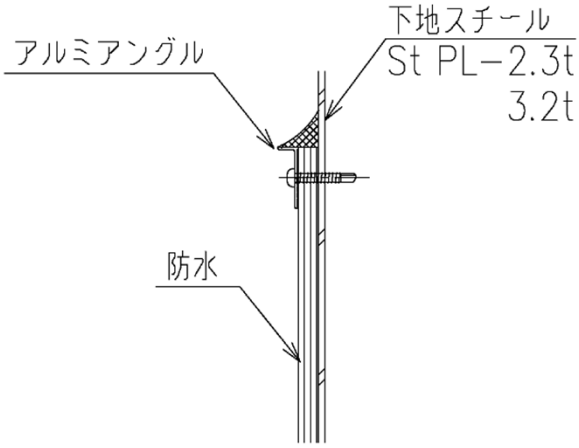
※t=6㎜スチールアングルに下端笠木、天端笠木を取り付ける場合NB-19(ヘックス六角ドリルねじ６×３５ユニクロ)を使用する。

※ユニクロにする理由はt=6㎜スチールアングルに対しては負けてしまうのでユニクロ(鉄)ビスを使用する。



スチールチャンネルt=2.3、3.2の場合
笠木取付の時

・B-540H　SUSテックスドリルねじ(六角)使用
・B-535　　SUSテックスドリルねじ(なべ)使用



アングルをスチール下地t=2.3、3.2に取付ける場合

・B-535　　SUSテックスドリルねじ(なべ)使用

※下地スチールがt=3.2を超える時はユニクロ(鉄)ビスを推奨